

2023年度

# 環境経営レポート

(対象期間 2023年4月～2024年3月)



発行 2024年6月10日

入間川ゴム株式会社

## 1. 事業所の概要及び登録範囲

### 事業所

事業所	入間川ゴム株式会社・本社工場
代表者氏名	代表取締役社長 清水 佑樹
環境管理責任者	池田 隆直
事業内容	工業用ゴム製品製造・販売
主要製品生産重量	2,400 トン
従業員数	110 名
所在地	埼玉県狭山市入間川 1-15-40
電話番号	04-2953-3131
床面積	9,621 m <sup>2</sup>

### 事業所

事業所	大阪支店
所在地	大阪府東大阪市楠根 1-8-3
電話番号	06-6746-2551
従業員数	8 名
床面積	222 m <sup>2</sup>

### 事業所

事業所	名古屋営業所
所在地	愛知県名古屋市中区金山 3-12-13
電話番号	052-331-6256
従業員数	3 名
床面積	165 m <sup>2</sup>

## 2. 環境経営方針

### 入間川ゴム株式会社 環境経営方針

#### <環境理念>

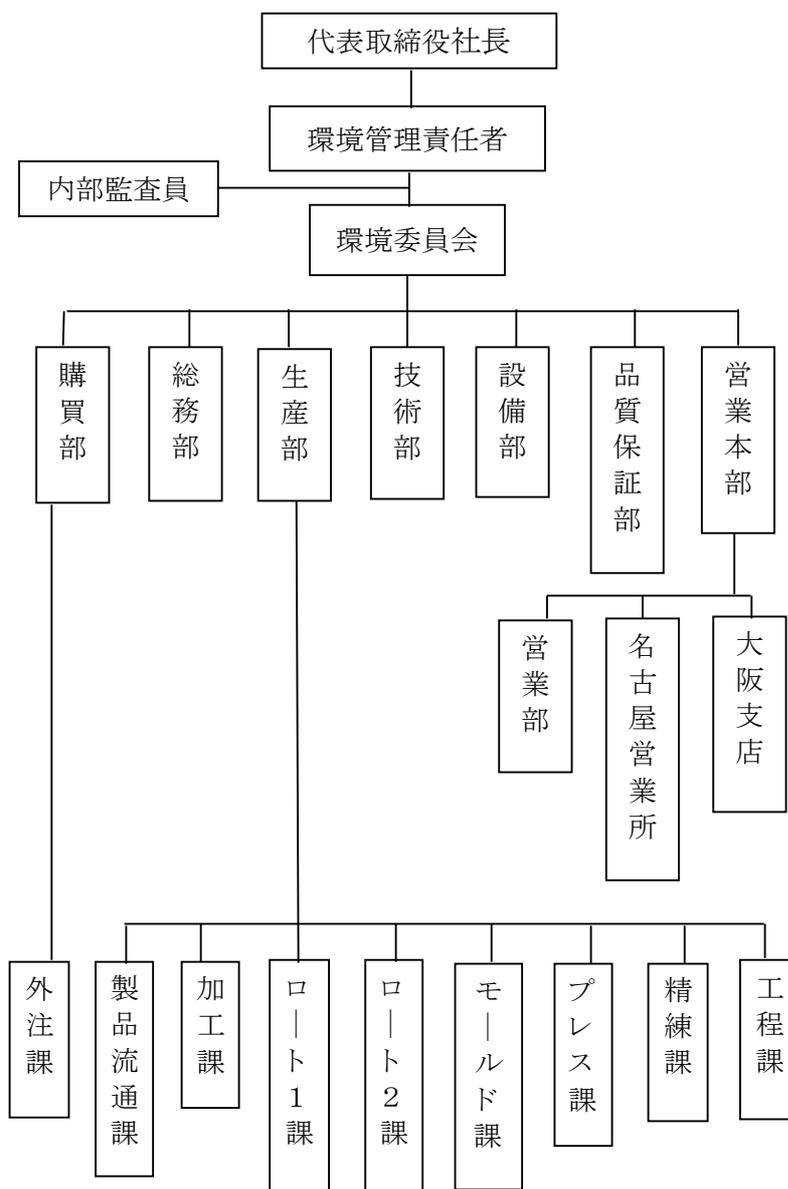
入間川ゴム株式会社は、環境負荷低減に向けた活動により、人と環境にやさしい事業活動を目指す。

#### <環境基本方針>

1. 事業活動を通じて省エネルギー、省資源の推進を図る。
2. 事業活動によって生じる廃棄物の削減及びリサイクルに取り組み、環境や資源に配慮した製品づくりを心がける。
3. 環境関連の法規制を遵守する。
4. グリーン購入に努める。
5. 化学物質排出量削減に努める。
6. 環境に対する方針を、全社員に周知する。
7. 環境目標を設定し、それに取り組み、定期的に見直しをすることにより、環境マネジメントシステムの継続的な改善を図る。

2019年4月1日  
入間川ゴム株式会社  
代表取締役社長  
清水佑樹

### 3. 実施体制



#### 4. 責任及び権限

	役割・責任・権限
社長 (代表者)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境マネジメントシステムを統括する責任を持つ。</li> <li>・環境マネジメントシステムに必要な人、設備、費用、時間、技能技術者、情報を用意する。</li> <li>・環境管理責任者を任命する。</li> <li>・環境経営方針を策定し、全従業員へ周知する。</li> <li>・環境マニュアル、本社環境経営目標、環境経営レポートを承認する。</li> <li>・代表者による全体の評価と見直しを実施する。</li> <li>・経営における課題とチャンスを整理し、明確にする。</li> </ul>
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・部門部署の環境経営目標、経営計画について、全社環境経営目標との整合性を確認する。</li> <li>・環境関連法規制等のチェックリストを承認する。</li> <li>・部署別環境目標・実施計画を承認する。</li> <li>・是正処置の実施を指示し、処置内容を確認する。</li> <li>・予防処置の処置内容を確認する。</li> <li>・環境活動運用状況を取りまとめ、社長へ報告する。</li> <li>・環境委員会を招集する。</li> </ul>
環境委員会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境委員会は、環境管理責任者及び各部長より構成する。</li> <li>・環境委員会は原則的に毎月開催し、省エネルギー(CO2排出量削減)、節水、廃棄物排出量削減など環境活動について審議する。</li> <li>・取組み状況の確認のほか環境についての問題点、改善の検討を行う。</li> <li>・環境への負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックを実施する。</li> </ul>
環境内部監査員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境に関する内部監査を計画する。</li> <li>・システムが継続的に改善されているか監査し、報告する。</li> </ul>
部署の責任者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境会議は、環境管理責任者及び各部署課長より構成する。</li> <li>・環境会議は原則3ヶ月毎に環境活動の確認・見直しなどを行う。</li> <li>・環境経営方針、環境経営目標を所属社員に周知する。</li> <li>・部署別環境目標、実施計画の達成状況を管理し、管理責任者に報告する。</li> <li>・所属社員に必要な教育訓練及び認定すべき資格を確定し、必要な教育訓練を実施する。</li> <li>・是正処置、予防処置を実施し効果を確認する。</li> </ul>
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・確認方針の理解と環境への取組の重要性を自覚</li> <li>・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加</li> </ul>

## 5. 環境経営目標と実績

### 1) 2022年度環境経営目標と中期目標

2021年度の実績をもとに2022～2024年度の3ヵ年計画を策定した。

#### 2022～2024年度中期環境経営目標 本社工場

項目	基準値	目標値		
	2021年	2022年度	2023年度	2024年度
生産重量当りCO2排出 2024年度は2021年比97% 以下 CO2/生産重量	0.586	0.580	0.574	0.568
生産重量当り産廃量 2024年度は2021年比91% 以下 産廃量/生産重量	0.0447	0.0434	0.0420	0.0407
生産重量当り地下水量 2024年度は2021年比97% 以下 地下水量/生産重量	1.57	1.55	1.54	1.52
化学物質削減 トルエン使用量 2024年度は2021年度比91%	1,065	1,033	1,001	969
製品に関する項目 不適合率の削減 (%)	4.10	4.05	4.05	4.05

電力のCO2排出係数：0.443(kg-CO2/kWh)[東京電力エナジーパートナー]2020年度

大阪支店		目標値		
		2022年度	2023年度	2024年度
電力 (kWh)	以下	9,819	9,169	9,077
ガソリン(km/L)	以上	13.4	15.3	15.1
廃棄物 (kg)	以下	116	106	103
水使用量 (m3)	以下	46.5	47.5	47

名古屋営業所		目標値		
		2022年度	2023年度	2024年度
電力 (kWh)	以下	5,850	5,615	5,555
廃棄物 (kg)	以下	103	101	99
水使用量 (m3)	以下	56	56	56

2) 2023 年度の環境経営計画と実施内容

項目	実施計画	実施確認
CO2 ガスの削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>多段蒸気プレスのスチームトラップを各段に取付て、トラップ1ケ→6ケにする。</li> <li>トラップを合計24ケ設置した。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループトラッピングとなっているので、スチームトラップを1段に1ケずつ設置し、温度も安定した。以前はドレーン水が抜けられないプレスがあり、バイパスバルブを開けてドレーン水を抜いていたが、多量の蒸気を放出していたため蒸気を無駄にしていた。</li> <li>蒸気量はおよそ30%程度削減できた。</li> </ul>
電力 ガスの削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>省エネパトロールによる指摘、改善</li> <li>蒸気ボイラーの送気見直し</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>蒸気漏れの改善、消灯、エア漏れを改善した。</li> <li>暖房について蒸気はガスを多く使用しCO2排出も多い。エアコン、電気ヒーターも併用した。</li> </ul>
電力	<ul style="list-style-type: none"> <li>冷却水チラーの更新</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>前年度の更新だが、23年度も従前の設備より約6万kWh/年低減した。</li> </ul>
産廃削減 廃棄ゴムの削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>夏場のスコーチ対策</li> <li>リターンゴム管理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>夏場のスコーチ対策は定着し、スコーチにより廃棄するゴムも減る効果が出ています。</li> <li>生産頻度の多いものは改善しているが、少ない品種は廃棄されるので、ロット量を含めた歩留まりの対策が望まれる。</li> </ul>
地下水削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>異常時の早期発見と対策</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>設備的な異常はなかったが、夏場冷却能力が不足したため、地下水を使用したため増えた。夏場の温度が高くなっているため対策を要する。</li> </ul>
化学物質排出削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>機械の洗浄について再検討する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>洗浄方法、代替品の使用で22年度も前年比25%減、23年度も前年比21%減と大きく減らしている。</li> </ul>

3) 過去3年間の環境経営目標の実績

本社工場

	2021年度	2022年度	2023年度
生産重量当りCO2排出	0.607 △	0.606 △	0.633 △
生産重量当り産廃産廃量	0.0447 △	0.0454 △	0.0459 △
生産重量当り地下水量	1.53 △	1.08 ○	1.78 △
トルエン排出量(kg)	990 ○	750 ○	525 ○
不適合率(%)	3.83 ○	3.68 ○	425 △

電力のCO2排出係数：0.443(kg-CO2/kWh)

○ 目標達成 △ 目標未達成

大阪支店

電力(kWh)	9,819 △	9,262 ○	8,977 ○
ガソリン(km/L)	14.0 ○	15.2 ○	16.6 ○
廃棄物(kg)	120 ○	109 ○	102 ○
水使用量 m3	47 △	48 △	42 ○

名古屋営業所

電力(kWh)	5,910 △	5,640 ○	5,380 ○
廃棄物(kg)	105 ○	103 ○	99 ○
水使用量 m3	57 △	57 △	59 △

4) 過去3年間の環境負荷実績

全社

項目	単位	2021年度	2022年度	2023年度
購入電力	MWh	2,757	2,619	2,259
都市ガス	m <sup>3</sup>	280,000	279,000	240,000
ガソリン	L	4,296	4,078	4,297
灯油	L	3,410	4,985	3,880
LPG	kg	5,078	5,126	4,425
エネルギー合計	GJ	39,669	38,342	33,052
産廃 産廃プラスチック	トン	153	144	120
上水使用量	m <sup>3</sup>	1,475	1,310	1,269
地下水使用量	m <sup>3</sup>	4,772	3,168	4,313
製品生産重量	トン	3,121	2,946	2,426

二酸化炭素排出量 (全社)

項目	単位	2021年度	2022年度	2023年度
購入電力 CO2	トン	1,220	1,159	1,000
都市ガス CO2	トン	604	603	518
ガソリン CO2	トン	10	10	10
灯油 CO2	トン	8	12	10
LPG CO2	トン	15	15	13
二酸化炭素排出量合計	トン	1,857	1,799	1,551

電力 CO2排出係数(kg-CO2/kWh) 本社工場 0.443 大阪支店 0.318 名古屋営業所 0.426

5) 2023 年度の取組とその評価

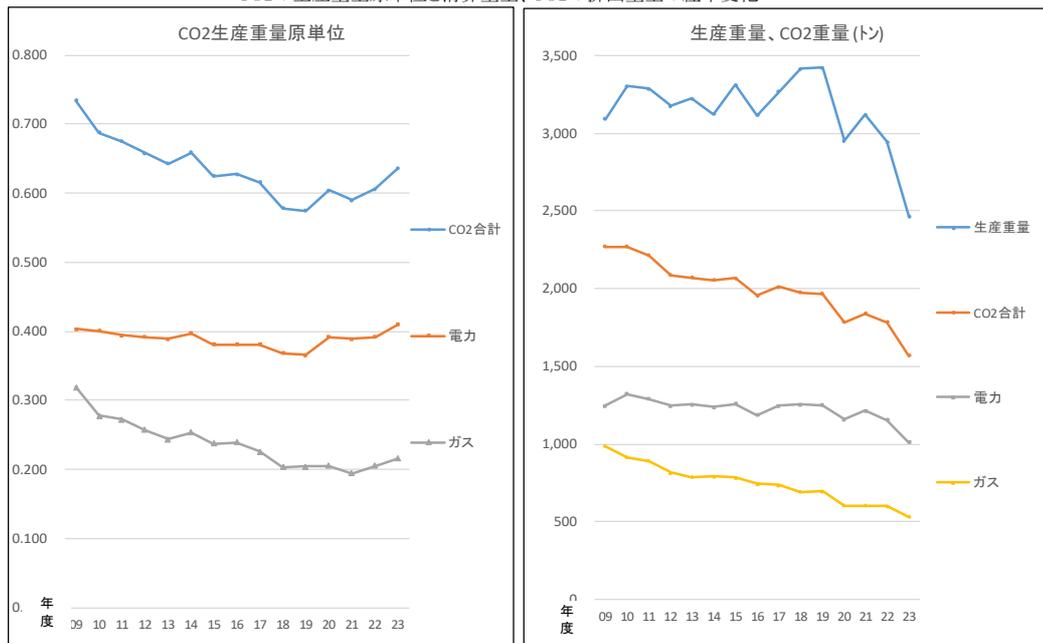
① CO2 排出

2023 年度大きく低減したことは、多段の蒸気プレスがグループとラッピング状態になっていて、ドレーン水が抜けないところがあり、バイパスバルブを開けて蒸気を放出し、ドレーン水を排出するようにしていましたが、なかなか抜けない状態でした。2023 年度はスチームトラップを多段プレスの各段に取り付けたため、グループとラッピング状態が解消でき、ドレーン水が溜まることなく温度も安定し、無駄な蒸気も放出しなく年間 CO2 で 45 トンほど低減できています。スチームトラップを 24 個設置し、有効に機能させています。

電力は 2 年前に更新したチラーが、年間 6 万 kWh 減っています。

CO2 の削減について生産重量原単位で見えており、生産重量が多いと効率が良く、少ないと効率が悪くなります。特に蒸気はエネルギー効率が悪いので、原単位では全体の

CO2の生産重量原単位と清算重量、CO2の排出重量の経年変化

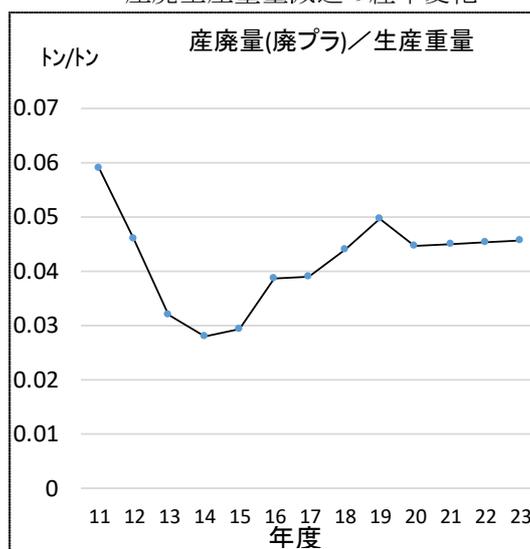


生産重量により大きく影響されます。コロナ禍になるまでは順調に原単位で削減してきましたが、コロナ禍以降生産量が減り 2023 年度は特に少なく、原単位で効率が悪くなっています。2023 年度は過去に例がないほど生産量が少ないので、従前との比較この評価の比較ができませんが、今後のデータの参考になります。

## ② 廃棄物削減

廃棄物削減の環境経営目標は、最終処分となる [ 廃プラスチック / 生産重量 ] である原単位で見えており、この多くは廃棄ゴムであり、最終処分となる産廃を削減することを目標にしています。再利用としてゴムチップ用、燃焼用に分別していますが、未加硫ゴムは再利用が難しく廃棄されるようになります。実際減らすには、不良率の他にも含めて特殊品の歩留まりが悪く、ロット量を含めた改善が必要で現状は多い状態で経年的にも横ばいであります。

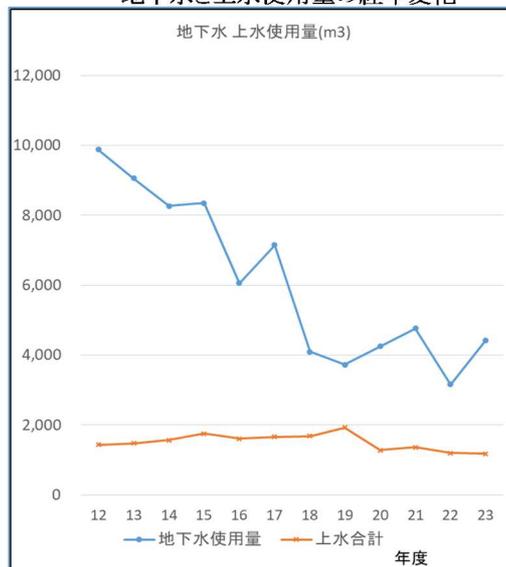
産廃生産重量減退の経年変化



## ③ 水使用量の削減

使用量の多い地下水の使用量を生産重量原単位として削減に取り組んできました。機械の大部分は循環水にして現状の設備では工場全体で 3000m<sup>3</sup> 程度が最低必要と思われます。その多くが蒸気用ボイラーの給水で、その他夏場機械の冷却と夏場の散水で使用量が増えます。2023 年度は夏場チラーの冷却能力が足りなかったため、7~9月に地下水を多く使ったため増えておりますので、今年度は改良対策して削減します。

地下水と上水使用量の経年変化



上水はコロナ禍以降減っていて節水は浸透しております。

## ④ 化学物質排出量の削減

当社は PRTR 物質を使用し、環境中に放出するのは溶剤が多いのでトルエンなどは

使用量の低減を目標としております。使用量が特に多いのは大型の機械を洗浄する時で、直接ゴムが通るところは品質にもかかわり洗剤だけではなく、溶剤を使用することになります。

代替溶剤などで一部の部署は大幅に減らし、全体でも 22 年度前年より 24%減らし、23 年度は前年度より 30%減らしており洗浄について減らすよう努力しております。

## 6. 次年度の取組内容

### 1) 2024 年度の環境経営目標

2024 年度は中期環境経営目標の 3 年目で、CO2 は 2023 年度も未達成ですが排出量は減っており、2024 年度の計画も生産量は 2023 年度より増やす計画であるので、中期目標のまま実施し、2024 年度の結果を見てまた中期目標を策定する。

### 2) 2024 年度の活動計画

CO2 削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スチームトラップを更新する。(パイソバルブを開け放しにしない)</li> <li>・省エネパトロールによる指摘改善</li> <li>・受電設備 3kV→6kV に順次更新</li> <li>・チラー能力の改善(タンク設置等)</li> <li>・プレス加硫の効率化</li> </ul>
産廃削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歩留まりの把握、改善</li> <li>・廃棄ゴムの活用 (掃除ゴム、リードゴム)</li> <li>・リボン生地の調整、監視</li> </ul>
地下水削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・チラーの冷却能力を改善して地下水使用量を減らす</li> <li>・異常時の早期発見と対策</li> </ul>
化学物質排出量の削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機械を洗浄する時のトルエンの使用を減らす</li> <li>・代替溶剤の使用(MCH とは別の溶剤)</li> </ul>

### 3) 2023 年度の取組内容

#### ① CO2 排出削減

当社の CO2 排出は生産重量原単位で見えていますが、生産量が減ると数値が悪く、蒸気は熱媒油に比べ効率が悪いので、全体の生産量に影響されます。2024 年度は、生産量を下げないでスタートし、生産効率そのものが環境経営目標に影響しますので、生産量が変わっても効率が下がらないような生産を考えていかなければなりません。

せん。

受電設備は 6kV を全て 3kV に変圧していますが、順次 3kV をなくしていき、この分は約 3%削減できます。

蒸気プレスのドレーン、スチームトラップは一部改善し効果が出ているので、他のプレス機も見直していきます。

## ② 廃棄物削減

産業廃棄物の大半は廃棄ゴムでありますので、廃棄ゴムの削減が主な取組で、分別、リサイクルはこれ以上伸展できませんので、歩留まりそのものを上げることが必要ですが、現実的には特殊品の扱い、ロット量にも影響され品質目標そのものに影響され、全社で取組ます。

## ③ 水使用量の削減

地下水については昨年度夏場に冷却能力が足りず、多く使いましたので今年度は設備の改善を行います。その他は特に異常がなければ増えないので、異常の送気発見と対策を行います。

## ④ 化学物質排出量の削減

洗浄用としての溶剤の使用が多いので、引続き洗剤、代替品の使用を定着していくようにします。別の代替溶剤も今年度から使い始めているので、実用的に使えるように取組みます。

## 7. 環境関連法規の遵守状況

### 環境汚染の防止

測定例として次の項目があり、測定値は基準値以内でした。

公共用水域への排出水の水質汚濁物質の測定(2023年4月～2024年3月)

水質汚濁物質	測定濃度平均	狭山市指導基準値
BOD(mg/l)	1	25

2023年度

法規制等	適用される事項	遵守状況	
		判定	報告 届出
工場立地法	特定工場(敷地9000m2以上)	○	1998年3月
工業用水法	揚水施設使用届出書	○	2007年8月
	地下水採取量、毎年報告	○	2024年1月
下水道法 県生活環境保全条例 下水道法施行規則	排水設備設置免除許可 5年毎に申請許可	○	2023年3月
	毎月水質検査計量証明書提出	○	毎月測定提出
	特定施設設置、使用届出(直接加硫施設)	○	2020年8月
	水質測定の義務(特定施設の排水)	○	毎月実施・記録
水質汚濁防止法	特定施設設置届出書(直接加硫施設)	○	2021年5月
大気汚染防止法	ばい煙発生施設設置届出書(ボイラー5台)	○	届出済
	ばい煙量測定 2022年10以降対象外	○	測定猶予
	ばいじん測定 2022年10以降対象外	○	測定猶予
省エネ法	原油換算使用量	対象外	対象規準未滿
PRTR法 県生活環境保全条例	指定化学物質排出・移動量等届出	○	2024年6月
	特定化学物質取扱量報告	○	2024年6月
	環境負荷低減主任者選任届出書	○	2022年5月届出
毒劇法	劇物の表示、保管、管理	○	実施
騒音規制法	特定施設設置届出書 コンプレッサー	○	届出済
振動規制法	特定施設設置届出書 コンプレッサー、ゴム練ロール機	○	2018年6月
廃棄物処理法	一般収集業者 許可証・契約証	○	発行済・確認
	産廃収集運搬・処理業者の許可証、契約書、保管場所の掲示	○	発行済・確認
	産業廃棄物管理票交付等状況報告書	○	2024年5月
フロン排出抑制法	フロン類の登録充填回収業者による適切な引き渡し	○	証明書入手
	第一種特定製品 簡易点検	○	3ヶ月毎実施
	第一種特定製品 定期点検 7.5kW以上チラー	○	2023年7月
公害防止組織法 県生活環境保全条例	大気(ボイラーが該当)の条例対象指定工場 公害防止監督者主任者とその代理者の選任	○	2022年5月
消防法	危険物製造所等設置許可証 第4類、第2類	○	1997年1月
	危険物保安監督者選任 第4類、第2類	○	2006年2月
火災予防条例	少量危険物貯蔵取扱所 複数個所	○	届出許可済
	指定可燃物貯蔵取扱所 複数個所	○	届出許可済

○：適合

これら重要な法規については違反がないことを確認しております。尚、関係当局から違反の指摘、住民からの訴訟等について過去3年間ありませんでした。

## 8. 代表者による全体の評価と見直し

社長、各部署長による全体の評価と見直し会議を行い、下記の項目について実施するよう指示がありました。

### 環境目標達成状況、環境活動計画、取組実施状況

コロナ禍となってから CO2 排出量の環境経営目標は、生産量が少ないので原単位では効率が悪く未達成となっているが、2022～2024 年度の中期目標通り 2024 年度の目標値とします。

### 変更等の有無、確認

- ・実施体制 … 継続
- ・環境経営方針 … 2019 年 4 月 1 日理念体系を改訂し、次年度も継続する。
- ・環境関連法規 … 環境関連法規取りまとめ一覧表を再確認
- ・外部コミュニケーション … 確認 2023 年度は特にはない
- ・次の事項も継続して取り組む

CO2 削減 … 継続      廃棄物削減 … 継続      水使用量の削減 … 継続  
化学物質排出量削減 … 継続      不適合率の削減… 継続

環境経営システムは継続的に改善させ、全員で目標達成を目指し、地域社会、取引先からも信頼されるよう環境活動に取り組めます。